

# 16世紀関東における自然環境と支配

大阪公立大学大学院文学研究科 博士後期課程3年 石田 将大

## 研究内容

本研究では主に戦国大名北条氏(以下、北条氏)の検地政策をもとに、戦国大名による検地の実施と年貢収取を分析する。それにより、大名領国下の郷村(村落)支配を明らかにする。

北条氏は広範囲の領国を統治しており(図)、それぞれの特徴にあった支配行っていたと考える。

本研究では、検地の実施において対象となった田畠や山野河海について、地図(絵図)や巡見調査などを踏まえ、歴史的な古環境の復元を目指す。また、現代における自然と社会をめぐる課題解決、自然環境と地域構造を歴史的視点から解明する。

## 1.16世紀の自然環境と検地政策をもとにした支配

北条氏による検地は、一定の領域性をもつものと、個別的に実施されるものがある。その基本的な性格は、当主が替わることに行われる「代替わり検地」とされる(1)(系図)。

### ● 検地の契機について

領域性のある検地が実施される前年に災害が発生している。災害が発生したことを理由に、不作となった土地や隠田を確認し、開発なども奨励することで、領域的な検地を実施したことが想定される。これにより、領域性をもつ検地について、これまでいわれてきた検地実施の契機に加え(2)、災害によって実施されることを明らかにした。

### ● 代替わり検地について

「代替わり検地」については、部分的な所領の継承にとどまり、従来いわれてきた領域性のある検地とはいえない。

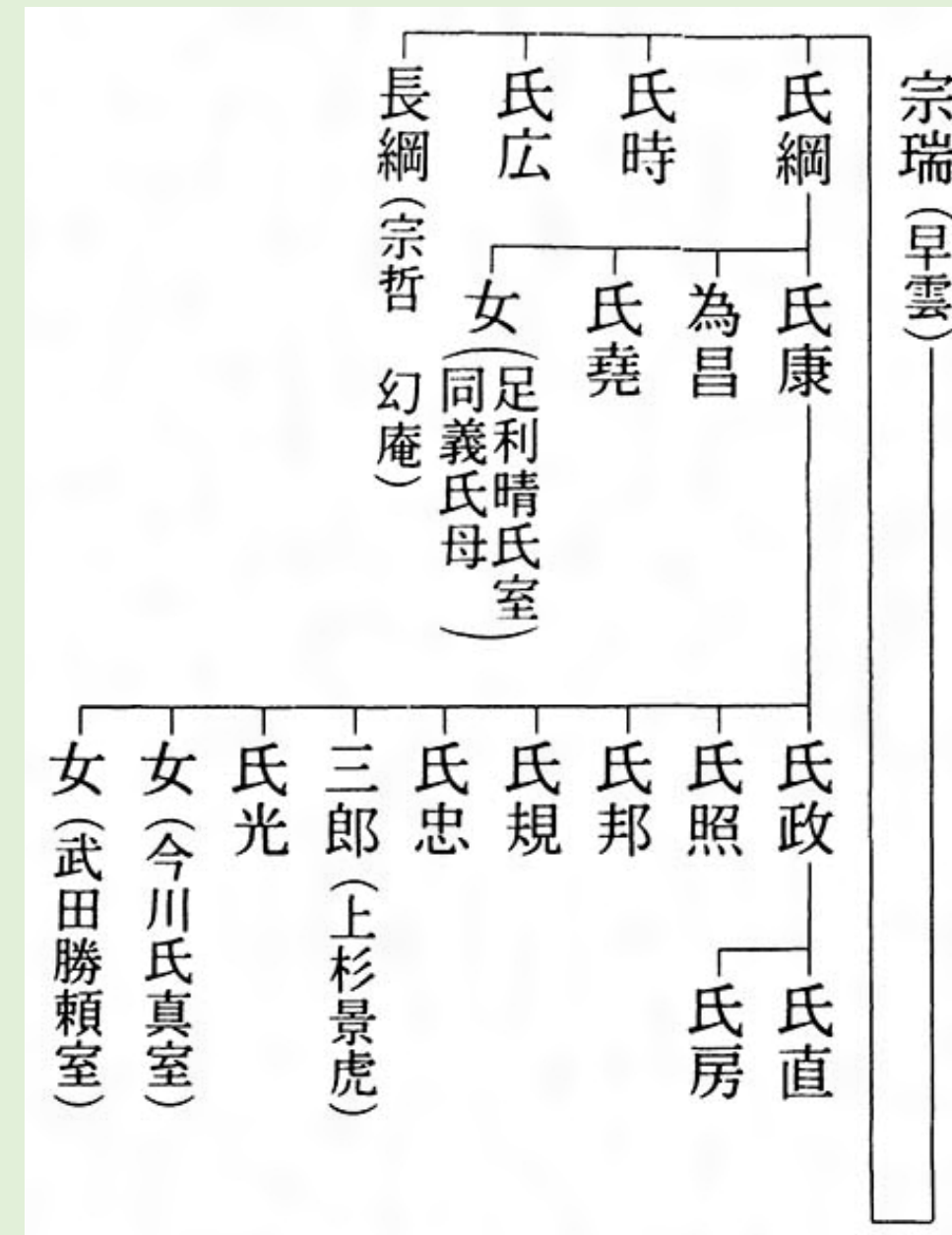
### ● 検地の実施方法について

検地には土地を丈量するものと、検分調査に留まる「検見」とそれ以外の方法がある(3)。それらに同じ基準を設け、年貢として徴収する(【史料】を含む19点からなる史料群)。



当主(就任期間)	検地書出(支城主も含む)
宗瑞(~1518)	なし
氏綱(1518~41)	+
氏康(1541~59)	x
氏政(1559~80)	*、氏照(■)、氏邦(○)、氏光(●)、不明(△)
氏直(1580~90)	□、氏照(▲)、氏邦(▽)、氏光(▼)、氏房(◇)

図 「検地書出」発給分布図(北条氏最大版図、1582年頃、黒田基樹氏図をもとに作成)



小田原北条氏系図(『国史大辞典』より)

【史料】「検地書出」

丙戌歳  
三〇二九  
【史料二】北条家検地書出写(「遠藤文書」『戦国遺文』後北条氏編)  
金野井本郷(下総国葛飾郡) 検地書出  
拾貳町四段七拾歩 田数  
此分錢、卅七貫二百廿文、 反別三百文宛  
卅八町四段大 畠数  
此分錢、六十三貫四百六十八文、 反別四百六十五文ツ、  
三町三反大 畠成歳開  
此分錢、五貫五百五十六文、 反別同理、  
四拾五歩 田成歳開  
已上、百六貫貳百八十文  
此内  
拾貳貫六百文 百姓公事免  
貳貫六百文 神田梶取明神  
貳貫六百文 堤免  
貳貫六百文 万福寺  
貳貫六百文 清満寺  
貳貫六百文 代官給  
貳貫六百文 定使給  
已上、貳拾三貫六百文  
此内、拾三貫六百文、当年一廻、人給不足二付、被為、  
八拾貳貫六百八拾文 定納 引、然者、郷中役も半役可致之、  
此内  
貳貫八百文 畠之分、推津屋敷百姓退傳(転) 不作、  
三貫八百文 田成歳水損、  
壹貫六百卅一文 畠當不作、  
已上、七貫四百卅一文、不作一廻引、  
残而  
七拾五貫貳百五十文 右、定引物之内、當年一廻ニ為引有物  
拾三貫六百文 已上、八十八貫八百五十文、当納、  
此外荒地  
拾貳貫六百文 田、浮土善殿山分  
三貫六百文 田、清滞寺分  
三貫六百文 田、蕪之内  
百卅貫文 畠、野本屋敷ヨリ小田邊境迄、  
已上、百四拾八貫文 荒地之分  
合、貳百拾四貫百八十文、 本郷踏立之辻、  
此外、木山 本郷浮土山、堅七十間・横四十間  
一ヶ所 本郷福原寺山、堅五十間・横卅間  
一ヶ所 本郷木草取野、貳里四方  
右、定取如件  
天正十四年丙午  
一月廿三日  
代官 恒岡(資宗)長門  
佐伯(信宗)若狭  
百姓中

## 2. 採択期間における調査と成果

採択期間は、研究で扱う史料原本の調査(4)と巡見調査(フィールドワーク)を行い、中世城郭や城下町の調査・研究につとめた。その結果、調査を行った史料について評価を改めることができた。日本の中世城郭や城下町は、地形を利用して建設されており、その地域ごとの特徴がでる。採択期間に実施した巡見では、それぞれの地域に特色があり、城郭・城下町の規模もさまざまであることがわかった。

## 3. 今後の課題と展望

採択期間での取り組みにより、原本史料に立ち返って研究することの重要性や、北条氏の史料と地理・気象を連関させる視点(5)からの研究方法を見出せた。今後の課題としては、当時の作物栽培技術や植生なども取り入れ、北条氏領国下にあった郷村の状況や田畠の性質をも参考にした研究を行ってゆく必要があると考える。そうした研究方法をとることで、従来よりも歴史的な古環境の復元が可能となるといえよう。

参考文献  
 (1) 佐脇栄智「後北条氏の検地」『日本歴史』177、1963年  
 (2) 久保健一郎「戦国大名検地と増分」『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊』16、1990年、同「戦国大名検地についての二、三の論点」『歴史評論』507、1992年  
 (3) 佐脇栄智校注「小田原衆所領役帳」『戦国遺文後北条氏編 別巻(東京堂出版、1998年)』  
 (4) 杉山博・下山治久編『戦国遺文』後北条氏編(東京堂出版、第一巻1989年、第四巻1992年)  
 (5) 家永達嗣「北条早雲の伊豆征服—明応の地震津波との関係から—」『伊豆の郷土研究』24集、1999年